

養 氣 軒

ようきけん

『さわやかな笑顔と思いやりの心で、安心、安全な満足される医療をめざします』
そのために、患者さんは言うまでもなく全職員ひとり一人を大切にします。

102 | お薬の「備え」

●ようきけんとは「病む人の病のみならず心をも癒すことの出来るところ」という意味です。

Preparing for Emergencies



お薬の「備え」はできていますか？

今年は年明けとともに大きな地震が発生し、以前にも増して自然災害を身近に感じています。持病をお持ちの方の災害への「備え」では、食料の備蓄、避難場所の確認といった一般的な「備え」に加え、お薬の「備え」も重要です。災害直後は救命救急が最優先され、通常の診療が受けられない可能性があるため、お薬を予め準備しておくことでそのような事態に備えることができます。具体的には次のようなことが勧められています。



- 3日間～1週間分の予備薬を準備しておく。(使用期限には注意が必要です。)
- お薬手帳のコピーを予備薬と同じ袋に入れておく。(違う薬局でもスムーズな処方に繋がります。)
- マイナンバーカードを保険証として利用できるようにしておく。(過去の薬剤情報を確認できます。)

出典：【2023年更新・保存版】災害時に困らないお薬の準備【実例を交えて紹介】 - EPARKくすりの窓口コラム | ヘルスケア情報 (kusurinomadoguchi.com)

大地震や豪雨などの自然災害は人間の力では食い止めることが出来ません。
しかし、日頃からの「備え」は災害による被害を減らすことができます。
お薬の「備え」についても、ぜひお考えください。
(外来 副看護師長 宮田 裕子)



糖尿病について

4 階病棟 看護師長 石丸 亜紀奈

4 階病棟では『糖尿病について理解していただくための入院』を実施しています。糖尿病について理解を深めていただき、生活習慣や血糖コントロール等の自己管理について学んでいただくための入院です。

糖尿病パンフレットに沿って、病気について、および血糖コントロールや合併症、治療方法について学んで

いただきます。インスリンを導入する場合は、練習用キットで操作に慣れていただき、看護師と手技を確認しながら、実践できるよう支援いたします。

患者さんが、安心して退院後の治療が継続できるよう、医師や管理栄養士とも連携しながら取り組んでいます。



四季を感じて癒しのひとときを

6 階病棟 副看護師長 平山 将

6 階病棟は長期入院の患者さんが多くいらっしゃいます。そういった患者さんに少しでも季節を感じていただきたいと考え、病室の入口やナースステーションに季節ごとの飾り付けを行っています。病院にいながらでも四季折々の景色や風景を感じることで、少しでも癒しを感じていただきたいと思い取り組んでいます。

また、感染対策を講じながら、七夕会、川棚花火大会鑑賞、クリスマス会など季節ごとの行事を行い、音楽に合わせて体を動かしたり、なじみのある歌を歌ったりしてリフレッシュしていただいております。

6 階病棟に来棟されたおりには、季節の飾り付けをご覧くださいけると幸いです。



秋 (コスモス)



梅雨 (あじさい)



ハロウィン



クリスマス会



川棚花火大会

クリスマスのレクリエーションを開催しました！

8病棟 看護師長 颯川 俊也

8病棟では、患者さんに病床で季節を感じていただくことを目的に、季節ごとに様々な行事を行なっています。

12月には、療育指導室を中心に、病棟看護師、療養介助員で計画し、クリスマスのレクリエーションとしてクリスマスイルミネーションとクリスマス画像の投影を行いました。

ベッドに寝た状態でも楽しめるような飾り付けや工夫を行いながら、病室を順番に廻り、患者さんにもサン

タクロースの帽子を被ってもらい記念撮影などを行ないました。

クリスマス画像の投影では患者さんから「綺麗ねー！」などの声が聞かれ、病床で過ごすことの多い患者さんに少しでも季節を感じていただくことができたのではないかと思います。

患者さんに少しでも喜んでいただけるよう、今後も春の花見、夏祭りなどの様々な行事を行なっていきたいと思っています。



胃や大腸の健康チェックについて

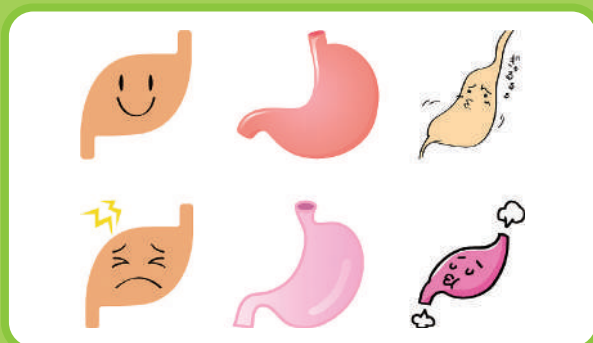
手術室・内視鏡室 看護師長 松尾 多美子

内視鏡検査は、体内にカメラのついたファイバースコープを挿入して、消化管内に異常がないか調べる検査です。口や鼻からカメラを入れて食道や胃などをみる検査が俗にいう胃カメラ、お尻から入れて直腸・結腸をみる検査が大腸カメラです。

当院でも人間ドックや消化管に異常がないか確認す

るための検査や、胃カメラ・大腸カメラを用いたポリープなどの切除、止血などの様々な治療を行っています。胃や腸管の内部を高性能のカメラで直接観察することで、炎症や潰瘍、腫瘍やポリープ、出血部位の特定など、自覚症状がない場合でも、体の外からでは分からない変化を発見することが可能です。

病気の早期発見、早期治療につなげることができます。人間ドックなどを利用して、ご自分の胃や大腸の健康状態を確認する機会をつくっていただければと思います。



診療科紹介(外科)

外科部長 徳永 隆幸

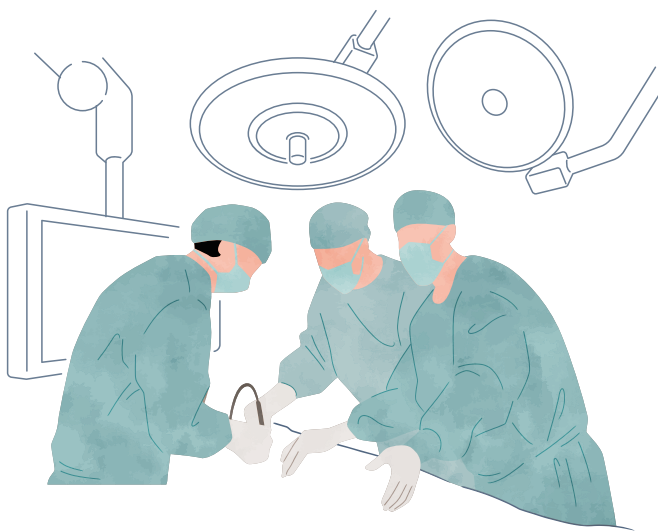
胃癌・大腸癌などの悪性腫瘍、急性胆嚢炎・急性虫垂炎・消化管穿孔（消化管に穴が開くこと）、ヘルニア（いわゆる脱腸）・胆石症などの手術を主に担当しています。

昨今、患者さんの高齢化に伴い、様々な持病や合併症を持つ患者さんが増えています。特に、全身麻酔下での手術が必要な患者さんの手術前後の管理においては、循環器内科や代謝内科とチームを構成し診療にあたっています。

患者さんにやさしく、見た目もきれいに、そして少しでも短時間で手術を安全に正確に終えるよう、内視鏡下手術などを駆使して日々頑張っています。

さらに、患者さんがお元気に退院できるよう、理学療法士・薬剤師・栄養士などとも協力して、早期リハビリ開始や病気に応じた薬剤・栄養指導を行っています。

外科的な病気について、専門的な診断や治療が必要な患者さんがいらっしゃいましたらお気軽にご相談ください。



部署紹介(医事)

専門職 甲斐 裕樹

『医事』は、病院窓口において外来・入院の受付業務や医療費の計算、会計、診断書の受付など、患者さんやご家族とお顔を合わせることが多い部署です。

これからも、患者さんやご家族への丁寧な対応を心掛けてまいりますので、よろしくお願いいたします。

また、ご相談、ご質問などなんでも結構ですので、お困りの際にはお気軽にお声かけください。



編集後記

地域医療連携係長 富永 文子

穏やかな日差しと吹く風で春を感じる季節となりました。今年度は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に下げられ本格的に各地でイベントやコンサートなどが開催され、感染予防を意識しながらもコロナ前の活気ある日常に戻りつつあります。当院でも面会制限を緩和し、3年程開催できなかった対面での医療従事者向け研修や川棚町公会堂での地域公開講座を開催しました。

地域の皆さんをはじめ医療従事者の方々など多数の方に聴講いただき、健康に関する意識の高さと当院の医療への期待を肌で感じ、果たすべき役割を再認識いたしました。今後も、地域全体の医療・介護の質向上に努めたいと思います。また、病気の予防や治療に関して今まで以上に情報発信していければと思います。